

深海からの来訪者 No. 5, 6

駿河湾深層水取水供給施設内にある取水ストレーナー内に、深海生物が混入することは本誌 Vol. 4,8,10 で、既に報告しました。混入する深海生物の体色は地味なものが多い中で、今回はひととき目立つ赤い体色を持つフサカサゴ科の大型2魚種、アコウダイ(来訪者 No. 5)とホウズキ(来訪者 No. 6)について紹介します。似ている2魚種ですが、アコウダイでは尾鰭後縁が浅く切れ込み、背鰭棘数は13(ホウズキでは12)等の特徴で見分けることができます。どちらも白身で脂がのり大変美味で、煮つけ・塩焼き等なんでも良しです。

来訪者名： アコウダイ *Sebastes matsubarae*

採取月日： 2004年7月27日

採取場所： 水深397m 取水ストレーナー内

サイズ： 全長35.2cm

体重： 750.5g

紹介： 本種(写真1)は、青森県から静岡県に分布し、深海の岩礁に生息します。日本固有種で深海釣りの魚として有名です。漢字で書くと赤魚鯛で、文字通り赤い魚という意味です。俗に“眼抜け”と呼ばれるのは、深海に生息するために釣り上げられると水圧の関係で眼がとびだしてしまうからです。



写真1 アコウダイ

来訪者名： ホウズキ *Hozukius emblemarius*

採取月日： 2004年6月23日

採取場所： 水深687m 取水ストレーナー内

サイズ： 全長34.5cm

体重： 650.5g

紹介： 本種(写真2)は、岩手県以南から九州に分布し、深海の岩礁に生息します。深海魚なので本種もアコウダイと混同されて呼ばれることもありますが、本種はホウズキ属であり、メバル属のアコウダイとは明らかに属レベルで異なる魚です。



写真2 ホウズキ (岡本一利)